

10/1日

忍び奴

(小方祭)

ひょうしぎ
拍子木から響く音に合わせて、一糸乱れぬ姿
で肅々と進んでいく「忍び奴」。
長いやり槍をもつお目付け役を先頭に息の合った
行列が小方のまちを通り抜けた。

(右)(下)長さ4メートル半を超える
長槍を先頭に進む奴行列。



右へ左へと豪快に練り歩く神輿の担ぎ手たち。



荘厳な巫女の舞。

奴 行 列



(左)厄年の人たちが担ぐ神輿。
今年は、辰と巳年生まれ。



(上)水しぶきを上げながら、迫力のある演奏を行った大瀧太鼓。
(左)各地域がアイデアを凝らして作成した6台の山車。多くの山車は雨のせいで、かっぱをかぶっていた。

陣入奴

(玖波祭)

10/8日

大名が本陣に入るとき、案内のため「先払い」として行った所作を継承している「陣入奴」。

抑揚の効いた掛け声が、玖波のまちに響きわたった。

重たい神輿が、左右に振られ、迫力満点。



(左上)(上)豪快な振り込みや槍さばきが多くの見物客を魅了した。
(左)獅子が頭をかぶり。

大竹三太

道中奴

(大竹祭)

10/15日

足を高く上げながら軽やかに進む「道中奴」。槍を投げ放っての交換は全国的にも珍しく、前後左右の4人が息の合った所作は見どころの一つ。あいにくの天候の中でも、一糸乱れぬ槍の交換を行った。

(左)(下)槍を投げ放っての槍の交換などで沿道の人々を魅了した。

